

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成24年2月23日(2012.2.23)

【公開番号】特開2009-217787(P2009-217787A)

【公開日】平成21年9月24日(2009.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2009-038

【出願番号】特願2008-98720(P2008-98720)

【国際特許分類】

G 0 6 F	3/02	(2006.01)
H 0 3 M	11/08	(2006.01)
G 0 6 F	3/023	(2006.01)
H 0 3 M	11/10	(2006.01)
H 0 3 M	11/12	(2006.01)
H 0 3 M	11/04	(2006.01)
H 0 4 M	1/247	(2006.01)
H 0 3 M	11/14	(2006.01)
G 0 6 F	3/048	(2006.01)

【F I】

G 0 6 F	3/02	3 1 0 D
G 0 6 F	3/023	3 1 0 K
G 0 6 F	3/023	3 1 0 J
G 0 6 F	3/023	3 1 0 L
H 0 4 M	1/247	
G 0 6 F	3/023	3 2 0 A
G 0 6 F	3/048	6 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年12月7日(2011.12.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

3行3列の鍵盤をもつ携帯入力端末の和文入力において、すべての字母を形式的に子音と母音に分けて、さらに以下のような方法を用いることによって、子音と母音の自動的交代を実現する入力方式。すなわち、そのうちの2行3列に形式的母音として5個の母音とともに子音鍵盤に置かれた零音価の子音符と結合して、ん、の入力を担う鼻音符を設定し、同じこの2行3列に、零音価の子音符とk、s、t、n、hの子音鍵を置き、さらにこのうちのk、s、t、hの鍵については、それが普通に押し下げられたときには、その音価どおりに入力され、やや長く押し下げられたときには、その濁音が入力されるというような、1回の押し下げの中で、清音と濁音の弁別する方式を設定し、前記の形式的母音とこれらの子音の間に子音鍵と母音鍵の自動的交代を実現するとともに、残りの1行3列の鍵に1回の押し下げによって入力されるm、y、rの鍵と、2回の押し下げによって入力されるw、pの鍵ならびにその鍵を押し下げるとその直前に入力された字母が普通の大きさであったときには小さく、小さかった場合には普通の大きさに変える機能を持った文字大小鍵を置き、前記の形式的母音とこれらの形式的子音の間に子音鍵と母音鍵の自動的交代を実現するとともに、子音と母音の自動的交代の原則の下での従属的方式として、必

要に応じて子音鍵の間の連続入力を保障するように設定することによって、3行3列の鍵盤をもつ携帯入力端末の和文入力において、すべての字母を形式的に子音と母音に分けて、子音と母音の自動的交代を実現する入力方式。